

卒業する今

新しい一歩を踏み出す人、
仲間を送り出す人——。
各部の方に、今の思いをききました。



女子短期大学 Women's Junior College

あたたかいまなざしに 育まれて

神戸 詩音 女子短期大学子ども学科3年

大きな変化の中で過ごした最後の学生生活。今まで通りにできなくなったこと、多くの我慢や制限の中、何ができるのか、どうすればできるのかを考えてきました。それはこれからも続くかもしれません。ですが、「できたこと」もたくさんありました。日々の授業、実習、卒論作成など、学生生活の一つ一つを無事に終えられ、ほっとしています。また、私は料理のレパートリーが少し増え、家族ともたくさん笑い合えました。祈り支えられ、「おかげさまで」と思えたことも皆きつとあったはずです。

卒業を迎える今、率直に思います。この短大に入学してよかったと。子ども学科は、先生方、副手の方々、学科全体が私たち学生を大切に思い、包み込んでくれます。その中でたくさんの本物に触れ、感じ、考えることができました。私は4月から保育者になる道を選びました。これから出会う子ども一人ひとりを大切に見つめ、日々関わっていきたいと思っています。この学び舎が私たちにそうであったように。

こころを高くあげよう

横堀 昌子 女子短期大学子ども学科教授

諸々の集大成にあたる今年度、遠隔での教育活動に伴った困難。お一人おひとりがどんなに努力して日々取り組まれたことでしょう。「できる形」を探し精一杯取り組んだ姿、育ち、実りが本学の歴史に刻まれました。「涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入れる」(詩編126編5節)。誰もがチャレンジャー。尊い歩みです。

「落ちてきたら/今度は/もっと高く/もっともっと高く/何度でも打ち上げよう/美しい願いごとのように」(黒田三郎「紙風船」、詩集『もっと高く』思潮社、1964年)。たちどまるときも、未来と希望をふくらませていきましょう。危機は永遠に続くとは限らず、願いは「抱く」ものなのですから。私たちがともに探究したのは、自分を活かし他者と生きる豊かさ。物事の本質を問い、自分の頭で考える姿勢。何もないところからでも何かを創り出すとする気概と創造性。あなたのこころに青短が宿り、旅は続きます。さあ行ってらっしゃい! 自分の可能性を信じて。



クリスマス礼拝(グロリアス・クワイア)



オンラインシンポジウム